

保護者様

学校だより

 北九州市立緑丘中学校
 校長 矢山 隆二

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

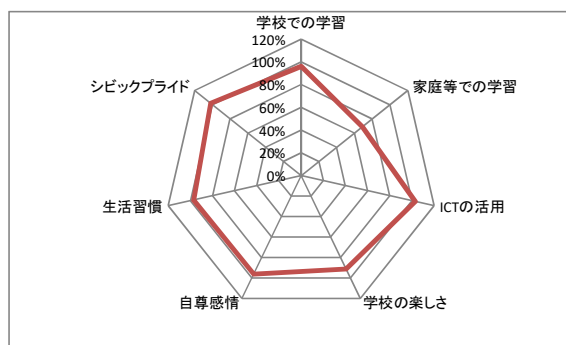
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	全体的に平均を下回っている。また、正答率の低い難問についての無回答率が福岡、全国と比較して高く、粘り強く問題に取り組む姿勢が必要であることがわかる。	下回っている
数学	全体的に平均以下である。計算問題は何とか解けるが、文章問題になると解くのが難しい。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析

- ・「シビックプライド(地域への誇りと愛着)」の項目は全国平均を大きく上回っていた。これは、3年間で計画的にSDGsを核とした総合的な時間の学習を実施したためだと考えられる。
- ・各教科で考えをまとめたり、意見共有をしたりする場面で、タブレットを活用することで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。
- ・土日の家庭学習の時間が少ない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

学習に関しては、「わかったつもり」を「わかった」に変えていくために、反復練習や主体的・協働的な学びの中でICT機器をより有効的に活用し、授業を行っていく必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、「1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して1時間以上の割合が低い。自主学習ノート等の活用やタブレットを活用した探究課題の設定により、家庭学習の推進を行っていく必要がある。